

特集

Webでリターナブルびんが見えてくる!

さらなるびんのリユース推進をめざし、リターナブルびんの活動の「見える化」をめざす。



リターナブルびんを定着・拡大させるために、リユースに関わるすべての主体が役割を果たすことが大切。

繰り返し使うことで環境に最もやさしい容器として注目されるリターナブルびんですが、年々減少の傾向にあります。この状況を変えていくためには、行政・事業者・販売事業者・消費者のそれぞれが、リターナブルびんの定着と拡大に向けた役割を果たしていくことが求められます。

事業者はリターナブルびん入り商品の開発や情報発信を行う。販売事業者はリターナブルびん入り商品を単なる商品として扱わず、リユースを推奨する売場をつくり、消費者に環境情報をわかりやすく伝える。消費者はリターナブルびん入り商品を選ぶとともに空きびんを取扱店に返却する。このように事業者と販売事業者と消費者が機能して初めてリターナブルびんがまわることを、それぞれが意識して活動していくことが大切です。そのためにも、リターナブルびんの現状を広く「見える化」していくことが、重要なポイントになっています。

当促進協議会ではポータルサイトを開設。

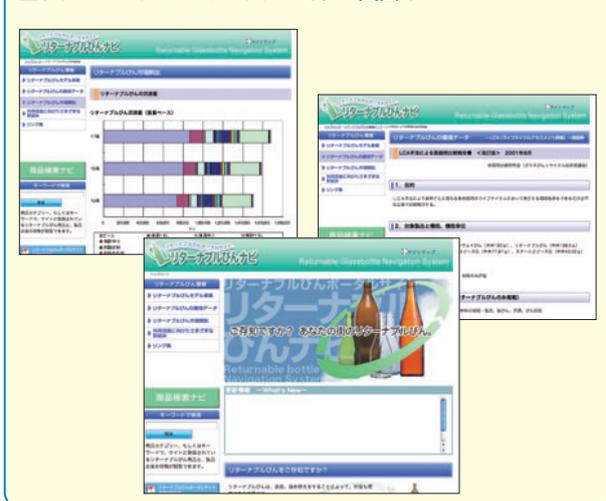
リターナブルびんに関する様々な情報を集約。

平成20年度の経済産業省の「地域省エネ型リユース検討事業」として、当促進協議会は、リターナブルびんに関する様々な情報を一つに集約したポータルサイトを構築し、2月25日にサイトを公開しました。また同日、マスコミへの資料提供も実施しました。このサイトの大きな目的は、事業者が行っているリターナブルびんの取り組みを「見える化」していこうというもの。さらに、熱心にリユースに取り組んでいる消費者団体等にとって、有効な情報源となることをめざしています。

ポータルサイトの構成は下記の通りで、各事業者が扱っているリターナブルびん入り商品(約1000商品を立ち上げ時に掲載)、事業者や団体の取り組みや環境データなどが、順次更新されタイムリーな情報として発信していきます。

今後は、全国5ブロック(東京・仙台・名古屋・大阪・福岡)で、環境NPOやリユースに関心のある消費者団体などと、リターナブルびんの地域定着と拡大に向けたシンポジウムを開催していく予定で、その中でも、このポータルサイトを紹介していきます。

■リターナブルびんポータルサイトの画面イメージ



■リターナブルびんポータルサイトの構成

<http://www.returnable-navi.com>

- リターナブルびんナビ(企業・商品情報)
- モデル事業(環境省・経済産業省・農林水産省)
- 環境情報(LCAデータ等 所見)
- 市場情報(中身業界の状況解説)
- 様々な取組(NPO消費者団体の活動状況)
- 関連団体のリンク集
- ポータルサイト活用の手引き

特集 Webでリターナブルびんが見えてくる！

一人でも多くの人にリターナブルびんが理解されるよう、
私たちもポータルサイトに期待しています。

経済産業省より



経済産業省 産業技術環境局
リサイクル推進課長
横山典弘氏

このサイトをきっかけに、リターナブルびん入り商品を選択する消費者が増えていくことを期待します。

平成18年度から3年間、経済産業省では「地域省エネ型リユース促進事業」で、様々なモデル事業を展開してきましたが、「リターナブルびんが環境負荷の低減に役立つとわかっていても、実際、消費者にはどれがリターナブルびん入り商品かわからない」という課題がありました。今回のポータルサイトの開設は、この課題

に応える非常に画期的な取り組みだと思っています。

具体的にポータルサイトに期待したいことは3つあり、1つ目は環境情報の発信です。製品の機能や価格は、表示を見たり使ってみればわかりますが、環境情報は裏に隠れていてわかりにくい。少々値段が高くても、環境にやさしい商品を選ぶ人も増えていますので、リターナブルびんの環境情報をうまく発信してほしいですね。2つ目は、このサイトがリターナブルびんに関するいろいろな情報を、集約化する機能を果たしてくれるのではないかとことです。3つ目は、一方通行の情報発信ではなく、情報が吸収できフィードバックする機能を持つサイトになっていけばいいと思っています。

こうした情報交換を通じて理解が深まり、リターナブルびん入り商品の選択が増えることを期待します。

消費者団体より



Rびんプロジェクト
代表
西村優子さん

いろんな情報が得られるのは非常に便利！ 新たな交流も生まれるような気がします。

このサイトにアクセスすれば、いろんな情報が集約されていて非常に便利で、インターネットは、これからの時代にマッチしていると思います。このサイトを利用することで、様々な世代や直接会えない人とも、新しい交流が偶発的に起こり、思いがけない発展につながる可能性が楽しみです。

今までは、学生たちの「リターナブルびんって何ですか」という質問や、「どこに聞いたらいいかわからない」という問い掛けに、時間をかけてすべて説明しなければなりませんでした。このサイトの開設により、リターナブルびん情報の「よりどころ」が生まれました。関心のある人にアクセスを促すこともでき、また一番新しい情報が得られるという信頼感もあり、安心ですね。具体的にリターナブルびん入りの商品も掲載されるということで、いろいろな成果があがるのではないのでしょうか。

Rびんプロジェクトの活動は、楽しむことを基本に、リターナブルびんの啓発と導入を両輪に進めていますが、このサイトにも、私たちの活動状況が掲載されました。今後は、その内容を更新しながら、イベントのお知らせや報告など、タイムリーな情報をお届けして、出会いに参加できれば嬉しいです。

全国びん商連合会より



全国びん商連合会
会長
今井一夫氏

このサイトでリターナブルびんをアピールして、 各地域であきびんの回収が進むといい！

私たちの団体では『回収びん一覧』というのを作成し、パンフレットやホームページでリターナブルびん入り商品を紹介していますが、年々、商品がかわるため十分対応できない部分があります。消費者団体との会合でも、「リターナブルびんがわからない」という声がありましたが、このサイトの開設で、より広範囲のリターナブルびん入り商品が紹介されることになり、とても有効だと思います。

また、消費者がリターナブルびんのことを理解できるだけでなく、今までリターナブルびんの商品を扱っていなかったメーカーが、このサイトに刺激されて、新たにリターナブルびんを採用するといった動きが生まれるかもしれません。大いに期待します。

現在、日本全国で流通している主なリターナブルびんは、一升びん・ビールびん・牛乳びんですが、これからは、このサイトでリターナブルびん入り商品の採用が増え、各地域で回収され、その中でうまく回ってほしいと思います。そういう状況が増えていけば、リターナブルびんのシステムが大きく広がるのではないのでしょうか。そのために、リターナブルびんを積極的にアピールしてほしいですね。また、今後このサイトでリターナブルびんの回収先がわかるようにすると、消費者にとって有効な情報になると思います。



Rマークびん(300ml)に入った ほうじ茶を開発し、テスト販売を実施。

京都硝子壺問屋協同組合
NPO法人木野環境

京都産のほうじ茶をRマークびんに入れて、
京都府庁や大学の売店などで販売。

「京都硝子壺問屋協同組合」と環境問題に取り組んでいるNPO法人「木野環境」は、過去2年にわたり、スーパーの店頭でリターナブルびんをPRするモデル事業を展開してきましたが、3年目の試みとして、リターナブルびんに入った商品を開発し、販売・回収する取り組みを実施しました。使用したびんは、すでに流通している清酒用の300ml・Rマークびんで、価格は1本120円(預かり金なし)。中身は京都府和束町産のほうじ茶で、ラベルのデザインは京都精華大学の学生が担当しました。商品名は「茶びん」で、びんに入ったお茶をイメージしています。

京都精華大学売店、奈良県立大学生協売店、京都府庁生協売店などで販売したほか、大学生協のホテル「コープ・イン京都」では、ウエルカム・ドリンクにも採用されました。2,000本充てんし、販売総数は1,216本で回収できたのが916本。回収率は75.3%でした。奈良県立大学では、仕入総数の48本を完売し、回収率は87%に達しました。同大学生の購入理由として最も多かったのが「環境に良い製品だと思った」で、環境に対する意識の高さが伺われました。

モデル事業終了後のリユース展開は、
流通システムを構築していくことが大きな課題。

当初、この「リターナブルびん入りほうじ茶」の販売チャネルとしてあげられたのが、会議施設・社員食堂・大学の売店など、同じ人が一定の時間滞留するような場所でした。そのような場所は、飲み終わったびんを外に持ち出すことなく、返却するという行動スタイルが期待できますが、市中の小売店の場合、回収は難しかったかもしれません。

木野環境では、モデル事業後の「茶びん」販売の継続と拡販をめざし、現在、会議施設等での可能性を探っていますが、流通システムが課題で、モデル事業では、従来からある生協の流通経路を利用できましたが、今後は商品の納入とあきびんの回収をスムーズに展開できるシステムが不可欠と予想されます。



▲大学生協で販売された「茶びん」



▲「茶びん」を購入する学生



埼玉のドラッグストアチェーンで、 健康飲料が入ったびんのリユースを展開。

株式会社エフケイ

お客さまの「もったいない!!」の声に応え、びんを回収。
モデル事業でびんのリユースシステムを実現。

埼玉県を中心にドラッグストア34店舗を展開する「(株)エフケイ」では、2006年初めからノニジュースという健康飲料をびんに入れて販売。「あきびんを捨てるのはもったいない!!」と、びんを返しにくるお客さまの声に応じて、びんを回収するようになりました。当初は、あきびんをカレット業者に出していましたが、環境に配慮するリユースを模索。(株)トベ商事(びん商)の協力のもと、今回のモデル事業で本格的にびんのリユース化をスタートさせました。この健康飲料のびんは900mlのワンウェイびんですが、強度の確認ができ、そのままリターナブルびんとして使用しています。

同社のリユースのシステムは、物流センターから各店舗に商品を配送する際、コンテナに集められたあきびんを回収し拠点に集結し、それをトベ商事が回収・洗浄して、充てん工場へ納入、という流れになっています。



▲あきびんの回収ボックス

のぼりや展示ボードで、あきびんの回収をアピール。
洗びん工場やリサイクルプラザの見学会も実施。

お客さまへの啓発は、「ノニジュースの空ビン回収中」という「のぼり」や展示ボード、チラシ等で、あきびんの返却をアピールしました。リユース化がうまくいった要因は健康飲料のピーターが多いこと、地域に根ざしたドラッグストアであることなどで、あきびんを店舗に返す人が多く、回収率は約50%に達しています。また、お客さまがあきびんを1本返却するたびに、ポイントカードに1,000ポイント(約10円分)を加算し、お得感でも返却を促しています。さらに、洗びん工場(トベ商事)や富士見市リサイクルプラザの見学会を開催して、お客さまに現場を体験してもらう活動も行いました。

お客さまへのアンケートでは、「引き続きあきびんの回収に協力する」という意見が多数を占め、その理由としては、「資源リサイクルに協力できる」「リターナブルびんは環境にやさしい」という回答が上位を占めています。同社ではモデル事業後も、びんリユースを継続する予定です。



▲ノニジュースのディスプレイ

昨年12月、「エコプロダクツ2008」に出展。 楽しい展示で、びんの3Rをわかりやすくアピール。

昨年12月11日(木)～13日(土)、「エコプロダクツ2008」が東京ビッグサイトで開催され、当促進協議会も出展しました。3日間の来場者数(主催者発表)は173,917人で、前年比9,014人と大幅に増え、当促進協議会のブースも大盛況でした。



▲ペンギンのオブジェ

今回、特に注目を集めたのが3Rを表現する「ボトルタワー」とペンギンのオブジェで、展示は「ガラスびん3R作戦(小学生版)パンフレット」から引用して、びんの3Rを推進することで天然資源やエネルギーが節約できることをアピールしました。また、子ども達に、軽量びんや超軽量びんを手にとったり、はかりで計ってもらうコーナーでは、重さの違いを体験してもらい大盛況でした。



▲来場者にびんの3Rについて説明



▲当ブースの展示状況

「くり返し使うびん応援コンテスト」が開催され、 ガラスびんリサイクル促進協議会賞を選出。



▲ガラスびんリサイクル促進協議会賞受賞作品

「びんに触れる経験が少ない若い人たちに、もっとびんを使う習慣を復活したい」という趣旨のもと、昨年11月、びん再使用ネットワーク主催の「くり返し使うびん応援コンテスト」に、『ガラスびんリサイクル促進協議会賞』で協賛しました。選考の結果、Rマークびんをアピールした作品を、『ガラスびんリサイクル促進協議会賞』に選出しました。

今回のコンテストで各賞を受賞した優秀作品については、びん再使用ネットワークのホームページ(<http://www.binnet.org>)から、ダウンロードすることができ、くり返し使うびんを応援する目的であれば、自由に利用することができます。

ガラスびんリサイクル促進協議会

〒105-0004 東京都港区新橋2-12-15 田中村町ビル8階
TEL.03-3507-7191 FAX.03-3507-7193
<http://www.glass-recycle-as.gr.jp>

■発行人 ガラスびんリサイクル促進協議会 理事・事務局長 木野 正則

3R推進団体連絡会が、 2008年フォローアップ報告会を開催。

昨年12月17日、経団連会館において、容器包装に係るリサイクル八団体で構成される「3R推進団体連絡会」が、2008年フォローアップ報告会を開催。同連絡会では2006年3月に「容器包装の3R推進のための(2010年を目標年次とした)自主行動計画」を公表しましたが、2007年度の取り組み状況とその成果について、報道関係者を招いて報告しました。

ガラスびんの3Rについては、リデュース(1本当たりの平均質量を1.3%軽量化)、リユース(モデル事業の実施)、リサイクル(カレット利用率95.6%)などの成果を報告しました。

●フォローアップ報告の詳細

ホームページ http://www.glass-recycle-as.gr.jp/3r_suishin



▲2008年フォローアップ報告会

品目	2007年度目標 (2004年度比)	2007年度実績	2007年度達成率
ガラスびん	1本あたりの平均質量を1.5%軽量化	1本あたりの平均質量を2.4%軽量化 削減量は約3,000t	1本あたりの平均質量を1.3%軽量化
PETボトル	主な軽量化サイズ・用途ごとに1本あたり質量を9%軽量化	主な軽量化サイズ・用途ごとに15種類の内訳で質量を9%軽量化	主な軽量化サイズ・用途ごとに15種類の内訳で質量を9.1%軽量化
紙製容器包装	2%削減	変化無し	変化無し
プラスチック製容器包装	3%	1事業として削減した削減量は1,339t 削減量は約4,800t	0.5%削減

▲各容器のリデュースの達成状況

ガラスびんの3Rを消費者に紹介する 新しいパンフレットが完成しました。



A4判・12ページ

ガラスびんの3R(リデュース・リユース・リサイクル)をわかりやすく紹介するパンフレットが完成しました。3Rを理解するための基礎知識とともに、3Rを進めていく上で消費者自身にできることを提示しています。さらにあきびんを排出する際の疑問などにも、やさしくお答えします。



パンフレットをご希望の方は
当協議会事務局まで

●ホームページ

<http://www.glass-recycle-as.gr.jp/gover/index4.html>